

講義名	国際経営論		
科目区分	学部専門科目		
担当教員	今西 珠美		
開講期・曜日・時限	後期 金曜日 3時限	授業形態	
履修開始年次	3年生	単位数	2
		備考	

主題と概要			
<p>主題：国境をまたいで活躍する多国籍企業の歴史・主要理論・経営の諸相について総合的に学びます。</p> <p>概要：海外進出を図り複数の国々で事業を展開したり、外国企業と共同で事業を行ったりする企業は増えています。本科目ではこのような企業の国際経営活動に関する基本的知識を修得し、生産、研究開発、人的資源管理、戦略的提携などの諸相における主要理論を、時に事例を交えながら理解します。</p>			

到達目標			
<p>一国内で活動する企業と複数の国々で活動する企業の違いを知り、グローバルに事業を展開する多国籍企業の国際経営の複雑性について理解しましょう。</p>			

提出課題			
<p>課題を提示します。</p>			

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック			
<p>授業時に講評します。</p>			

評価の基準			
<p>学習成果を評価します。出欠はとりません。定期試験・提出課題（85%）、授業態度など（15%）を予定しています。代替授業（遠隔授業）期間が長期化すれば提出課題の割合が高まり授業態度は0%になるかもしれません。</p>			

履修にあたっての注意・助言他			
<p>①受講対象は人間社会学部生です。所属学部にご注意して履修してください。 ②授業時に次回使用する教材を配布します。教材は必ず読んで来るとともに授業時に持参してください。当日の教材配布、およびパワーポイント資料の配布はいたしません。 ③受講態度は成績評価に影響します。例えば、授業中のスマートフォン、音楽プレーヤー、ゲーム機等の使用、私語や睡眠の継続といった行為は、たとえ教員が直接注意をしなかったとしても単位修得に大きく影響します。程度によっては「評価の基準」に示す比率以上に減点する場合がありますので十分注意してください。 ④代替授業（遠隔授業）期間が長期化すれば内容を変更します。授業計画も変わります。</p>			

教科書	
なし。	

プリント資料及び参考文献	
<p>参考文献 『グローバル経営入門』日本経済新聞社、2003年。 浅川和宏・林正・多田和美・大木清弘『はじめての国際経営』有斐閣（有斐閣ストゥディア）、2015年。 中川カエ・林正・多田和美・大木清弘『はじめての国際経営』有斐閣（有斐閣ストゥディア）、2015年。 安室憲一監修・古沢昌之・山口隆英編『安室憲一の国際ビジネス入門』白桃書房、2019年。 吉原英樹編『国際経営論への招待』有斐閣（有斐閣ブックス）、2002年。</p>	

授業計画	
1	国際経営論へのアプローチ
2	国際経営とは (1)
3	国際経営とは (2)
4	国際経営の歴史
5	国際経営の理論
6	国際マーケティング (1)
7	国際マーケティング (2)
8	海外生産 (1)
9	海外生産 (2)
10	国際研究開発
11	国際人的資源管理
12	国際経営組織
13	国際戦略提携 (1)
14	国際戦略提携 (2)
15	国際経営の未来

授業形態（アクティブ・ラーニング）	
	ア：PBL（課題解決型学習）
	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート
	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション
	カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間	
<p>①授業の予習（120分程度） 授業中に次回使用する教材を配布しますので、その教材をよく読んで授業にのぞんでください。 ②授業の復習（120分程度） 毎回授業の冒頭でキーワードを提示しますので、各々の内容確認を入念に行ってください。 さらに、それらの相互関連性を考えることによってその回の授業全体の理解を深めてください。 参考文献の利用も推奨します。</p>	

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述	
<p>問いかけます。発言や挙手などにより積極的に授業に参加、意思表示してください。 代替授業（遠隔授業）の場合、課題の提出とフィードバックによりコミュニケーションを図りたいと思います。</p>	

実務経験の有無及び活用	
実務経験なし	

備考	